

授業科目名		開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態																											
精神看護学特論Ⅲ(精神看護倫理・当事者論)		1	前期	2	講義 30時間																											
担当教員	田中美恵子、畠山卓也																															
授業概要	精神看護倫理の基礎理論、当事者論等を学び、精神保健医療サービスのユーザーの権利を保護し、当事者のリハビリを支援する看護活動展開のための理論的基盤を養う。さらに当事者が求める精神保健医療・看護について、リハビリモデルおよびストレスモデルを基盤に洞察する。																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護倫理の基礎理論を学び、実践を倫理的観点からみるための基礎を養う。原則論、臨床倫理(手順論)、ナラティブ倫理を扱うとともに、隔離拘束に伴う倫理について学ぶ。 2. 手順論、ナラティブ倫理をもとにして、倫理的事例検討を行う。 3. リハビリモデル・ストレスモデルなど、当事者中心のモデルについて理解する。 4. 当事者の手記、当事者の視点に焦点を当てた研究等を読み、当事者体験を理解する。 																															
履修条件	特になし																															
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-2</td> <td>倫理理論の基礎：原則論等、基礎的倫理理論について学ぶ。</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>3-4</td> <td>臨床倫理・ナラティブ倫理：臨床倫理とナラティブ倫理の理論について学ぶ。</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>5-6</td> <td>隔離拘束に伴う倫理：隔離拘束に関わる倫理について事例を通して学ぶ。</td> <td>畠山</td> </tr> <tr> <td>7-8</td> <td>事例検討：手順論を使って、倫理的事例検討を行う。</td> <td>畠山</td> </tr> <tr> <td>9-10</td> <td>事例検討：ナラティブ倫理を使って、倫理的事例検討を行う。</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>11-12</td> <td>当事者論：リハビリモデルの思潮、概念について学ぶ。</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>13-14</td> <td>当事者論：ストレスモデルの理論と応用について学ぶ。</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>当事者論：当事者の手記・体験記を読み、当事者体験を理解することの意義について洞察する。</td> <td>田中</td> </tr> </tbody> </table>					回	内容	担当教員	1-2	倫理理論の基礎：原則論等、基礎的倫理理論について学ぶ。	田中	3-4	臨床倫理・ナラティブ倫理：臨床倫理とナラティブ倫理の理論について学ぶ。	田中	5-6	隔離拘束に伴う倫理：隔離拘束に関わる倫理について事例を通して学ぶ。	畠山	7-8	事例検討：手順論を使って、倫理的事例検討を行う。	畠山	9-10	事例検討：ナラティブ倫理を使って、倫理的事例検討を行う。	田中	11-12	当事者論：リハビリモデルの思潮、概念について学ぶ。	田中	13-14	当事者論：ストレスモデルの理論と応用について学ぶ。	田中	15	当事者論：当事者の手記・体験記を読み、当事者体験を理解することの意義について洞察する。	田中
回	内容	担当教員																														
1-2	倫理理論の基礎：原則論等、基礎的倫理理論について学ぶ。	田中																														
3-4	臨床倫理・ナラティブ倫理：臨床倫理とナラティブ倫理の理論について学ぶ。	田中																														
5-6	隔離拘束に伴う倫理：隔離拘束に関わる倫理について事例を通して学ぶ。	畠山																														
7-8	事例検討：手順論を使って、倫理的事例検討を行う。	畠山																														
9-10	事例検討：ナラティブ倫理を使って、倫理的事例検討を行う。	田中																														
11-12	当事者論：リハビリモデルの思潮、概念について学ぶ。	田中																														
13-14	当事者論：ストレスモデルの理論と応用について学ぶ。	田中																														
15	当事者論：当事者の手記・体験記を読み、当事者体験を理解することの意義について洞察する。	田中																														
教科書	特に指定せず。																															
参考書	<p>宮坂道夫：医療倫理学の方法 原則・手順・ナラティブ、第2版、医学書院、2011.</p> <p>鶴若麻理、麻原きよみ：ナラティブでみる看護倫理、南江堂、2013.</p> <p>マーク・レーガン著、前田ケイ監訳：ビレッジから学ぶリハビリへの道、金剛出版、2005.</p> <p>チャールズ・A・ラップ他、田中英樹監訳：ストレスモデル 精神障害者のためのケースマネジメント、金剛出版、2008.</p>																															
評価方法・基準	プレゼンテーション準備度20%、講義および討議への参加度10%、レポート70%とし、総合的に評価する。																															
事前・事後学習	事前に示す資料を読んでくること。事後には、学んだことをもとに、臨床での事例について、当事者の視点および倫理の視点から考えてみる。																															
備考	特になし																															